



一般質問（本会議場）

大月市議会  
第5回（12月）  
市議会定例会

## 議会報告

地域活性化を軸足にして、経済と地域振興、子育て支援、雇用創出などについて質問しました。現に進んでいる大月市政の課題ときりむすんだ提案を心がけました。ここでは、大月駅北側への大型店出店問題と重度障害児医療費問題を中心に報告いたします。

大型店出店の影響とリスクをしっかりとらなければならない

（問）大月駅北側への大型店の出店計画は、地域活性化の目玉が欲しい本市にとって、願ってもない話に感じられますが、人口減少のもと出店による影響や退店のリスクはこれまで以上に高まります。中小商店や既存の商業施設を壊し、最後には大型店自身も撤退するという最悪の事態を避けるために、しっかりとしなくてははいけません。

地域商店街等による防衛策として、小売商業調整特別措置法の活用を助言すべきではないでしょうか。

（答）この法律におきまして、中小小売商団体は、山梨県に対して調査を申し出ることができることは認識をしております。

重度心身障害児の医療費窓口無料化へ早期対応を

（問）県は昨年11月より重度心身障害者医療費を窓口有料化、自動還付方式にしました。その結果、中学3年生までの医療費無料化を実施している本市では、「障害を持つている児童だけは窓口払いが求められる」という逆転現象が起きています。繰り返し求めてきましたが、健常児と障害児の差別的な扱いを早期に是正すべきです。

（答）現在県では重度心身障害児の医療費支払いについて、来年4月から窓口無料に戻す方向で検討をしております。本市におきましても、県に足並みをそろえ、来年度に向け関係条例を改正し、窓口無料化への見直しを図りたいと考えております。



大ツキ軽トラ市＝商店街が中心になり実行委員会できりくんでいる

## 大月駅北側への大型店の出店計画に賛否両論

「北側の広大な更地があつたままではいいわけではないが、人口減少でマーケットは小さくなるのに成り立つのか」「活性化はありがたいが、大型店舗の出店で商店街やダイエーは大丈夫か」「道が狭過ぎないか」—新聞報道があつた9月以降市民の間で賛否両論があります。「後は野となれ山となれ」ではまちづくりはできませんので、私は大型店の出店による既存小売店への影響をできるだけ減らす方策や交通渋滞対策について市の対応を質問しました。

## 重度心身障害児医療費の窓口無料化が4月から復活

県議会で、自民党議員が県の決定以前に独自に無料化を決めた上野原市や甲斐市、甲府市などを名指しで「選挙対策」と攻撃したことから、公開質問状を受ける事態となりました。浅はかなことを言うものです。このたびの無料化の復活は、市民の声が政治を動かした典型的な事例です。切実な声と運動が市町村と県を動かしました。私もその運動に加わったことを大変うれしく思います。

## 交通弱者対策と福祉タクシー分野での雇用創出を提案

どの集落もバス停から500メートル以内にあり、「大月市内には交通空白地区はない」と市はしていますが、高齢者にとってはその距離が大変です。よりきめ細かな交通弱者対策が必要です。そこで私は福祉タクシーの普及を提案しました。本市では、介護タクシー4事業所10台、福祉有償運送1事業所3台で事業を実施しています。市では「今後、新規参入希望の事業者には、適切な情報提供など積極的に協力し、交通弱者の足の確保を図っていききたい」としています。

## 研修 常任委員会委員長として行政視察研修 11月18-19日

視察先に選定したのが、出生率「2・04」の奇跡の村！！長野県下伊那郡下條村。NHKのテレビカメラが入る中での研修でしたが、村長の危機意識とやる気、職員の意識改革で村が再生していく様子を知ることができました。本市の出生率「1・15」と比べると際立ちます。くわしくは「市議会だより」にゆずりますが、本市再生の展望がみえてきたように感じています。